



アマビエのあと

新型コロナの感染状況も小康状態となり、移動規制が解除となった。ある日のこと、私は評判の寿司屋さんの玄関口に興味をそそる妖怪の絵があることに気づいた。アマビエである。ポスターには、多分、悪疫退散という文字があったはずだ。

このところ、カミュ作「ペスト」が、しばしば、テレビ、マスコミ等に登場する。カミュは「人生は不条理に満ちている」と考えたようだ。真面目に懸命に生きてきた人々が、ある日、突然、命を絶たれるのである。病であったり、テロであったり、まさに何が起こるか分からない時代を私たちは生きている。だが、テロはともかくとして、ペストは、もはや過去の病になった。肺結核、天然痘どころか、癌さえも人類はやがて克服するだろう。

厄介なのはインフルエンザに代表されるウイルスだ。今、最も懸念されているのが、強毒性のインフルエンザの登場である。ウイルスから私たちを守るのは、「三密」にならない、マスクの着用、うがい、手洗いの励行であることは周知の事実である。一方、コロナは都会への過度な人口集中の危険性を示唆している。

都会での生活は、私たちを本当に健康で文化的な生活へと誘うものなのだろうか。私は農業への憧れを、ずっと、抱き続けてきた。だが、私はどうも体力に自信が持てない。これからも、ウイルスに怯えながら、都会での生活を続けて行くしかないだろう。

コロナの影響で、葦の家の様々な事業が中止や延期を余儀なくされた。残念ながら、「わはは祭り」も例外ではない。コロナの一日も早い終息と、仲間、スタッフ、地域の皆様の健康を祈念しつつ。

社会福祉法人葦の家福祉社会
理事長 福山 良弘



第4次中期事業計画を策定しました

これまで、法人は、利用者、役職員、地域関係者やボランティアなどで計画を立て、事業を実施してきました。前期の3次計画（2015-2019）では、2つ目の通所施設「えーる油山」、地域型グループホーム「すまいるホーム」、障がい者基幹相談支援センターを開設しましたが、未達成の事業があり、財務や組織などの経営面での課題も残りました。今回の計画は期間を3ヶ年とし、経営基盤を固めつつ、地に足のついた着実な事業の実施をめざします。前期の課題を引き継ぎながら、少子高齢化、単身化等の福祉ニーズに対応できる地域貢献事業、職員が安心して働き、成長できる仕組みづくりに取り組みます。“みんなで作ろう、たくさんの「る！」”のコンセプトのもと、利用者を中心に、家族、職員、地域の方々みんなの福祉の増進をめざします。ご支援、ご協力をお願いいたします。

～ 第4次計画の基本方針 ～

1. 理念の継承と中期事業計画を遂行できる新しい経営基盤、組織づくりを行います。
2. 地域生活支援事業の連携体制をつくり、事業の安定化を図ります。
3. 日中活動の基盤整備とメニューの充実を図ります。
4. 放課後等デイサービス事業を開設します。
5. 新たな地域貢献事業に取り組みます。

（法人本部長：友廣）

葦の家の入所式が行われました

4/4（土）、新しく葦の家に入った仲間と職員の入所式を行いました。感染防止のため、規模を縮小しての開催となりましたが、あたたかく、気持ちのこもった式典となりました。



今年もエントリー！

わははあーと君が今年もゆるキャラグランプリにエントリーしています！



わはは祭りを中止します

今年10月開催予定だった「わはは祭り2020」は新型コロナウイルス感染収束の見通しが立たず、準備作業も行えないため、中止いたします。毎年、お手伝いいただいていた皆さん、開催を楽しみにされていた皆さん、本当に申し訳ありません。次年度以降、また地域の皆さんに喜んで頂けるような祭りが開催できるよう、スタッフ一同、頑張っていきます。

令和元年度 葦の家福祉会 事業報告

※以下は全体総括の概要です。本文はホームページに掲載します。

1. 在宅支援事業の安定化

特例居宅介護の積極的活用、非常勤職員の追加採用、通所施設からの応援、職員の兼務体制、効率的なシフト調整などにより在宅支援事業を黒字化しました。相談支援ではライン、業務の見直しを図り、安定した体制を再構築しました。

2. 第4次中期事業計画の策定、計画的な世代継承

中期事業計画推進会議を軸に議論を重ね、各部会にて素案を作成しました。職員アンケートを実施し、現場の意見も取り入れ、管理職のみでなく、次世代を担う職員も参画しながら事業計画策定作業を進めていきました。

3. 人材の確保、キャリアパスによる考課、育成体制の整備

新卒採用枠は概ね確保できましたが、中途採用については求人の効果が不十分でした。年間を通した新任研修を行い、職員階層ごとの育成プログラムモデルの集約を行いました。

4. 人事、財務、労務など管理、運営体制作り

人事考課に関する規程整備を行いました。施設の建物診断と修繕資金、福祉充実残額の見立てを行い、修繕計画策定の準備を行いました。労務面では、働き方改革に伴う、年次有給休暇取得、非正規職員の処遇改善に向けた規程整備等を行いました。また、法人、税理士事務所による監査、事務局内部点検等を行い、法令遵守体制を強化しました。

5. BCP、防災、緊急体制等の危機管理体制整備

地震対策のBCP（事業継続計画）の取りまとめを行いました。今後、風水害対策についてのBCPも策定していく予定です。

6. 次期中期事業計画につながる取り組み

地域貢献活動では、制度の谷間のサービスに対応できる公益事業の開設準備を行い、日中活動ではアートデザイナーとの委託契約、農業用地の確保など、仲間たちの活動を広げるための取り組みを行いました。放課後等デイサービス整備は、スタッフ確保の問題があり見送りました。

7. グループホーム運営の安定化、短期入所の連携、強化、相談体制の見直し

福岡市に障がいの重い人たちのグループホームに対する運営費補助、居宅サービスの在宅扱い等の制度化を求め、関係団体、市議員等と連携し、担当課、副市長、保健福祉局長に対して要望活動を行い、次年度予算化につながりました。

8. 法人役員改選

定時評議員会にて役員改選を行い、法人運営・監査体制の強化を図りました。

令和元年度決算報告書

社会福祉法人 葦の家福祉会

【貸借対照表】

令和2年3月31日現在

資産の部	金額	負債の部	金額
流動資産	369,185,270	流動負債	41,600,777
現金預金	276,012,021	事業未払金	36,235,593
事業未収金	88,514,064	1年以内返済予定設備資金借入金	4,212,000
未収補助金	2,527,646	職員預り金	1,153,184
前払費用	1,822,419		
1年以内振替長期前払費用	309,120		
固定資産	377,217,249	固定負債	57,171,000
基本財産	274,271,221	設備資金借入金	57,171,000
土地	36,533,199	負債の部合計	98,771,777
建物	236,738,022		
定期預金	1,000,000	純資産の部	金額
その他の固定資産	102,946,028	基本金	41,114,081
建物	2,000,393	基本金	41,114,081
構築物	7,605,341	国庫補助金等特別積立金	67,257,282
機械及び装置	3	国庫補助金等特別積立金	67,257,282
車輛運搬具	17,523,876	その他の積立金	65,077,068
器具及び備品	7,478,583	施設整備等積立金	63,577,680
権利	76,440	備品購入積立金	414,220
ソフトウェア	1,889,244	工賃平均積立金	1,036,162
施設整備等積立資産	63,577,680	工賃変動積立金	49,006
備品購入積立資産	414,220	次期繰越活動増減差額	474,182,311
工賃平均積立資産	1,036,162	次期繰越活動増減差額	474,182,311
工賃変動積立資産	49,006	(うち当期活動増減差額)	60,888,520
長期前払費用	1,004,640		
差入保証金	36,000		
その他の固定資産	254,440	純資産の部合計	647,630,742
資産の部合計	746,402,519	負債及び純資産の部合計	746,402,519

【資金収支計算書】

(自)平成31年4月1日(至)令和2年3月31日

(単位:円)

	科目	金額
事業活動による収支	事業活動収入	506,100,788
	事業活動支出	428,530,179
	事業活動資金収支差額	77,570,609
施設整備等による収支	施設整備等収入	801,320
	施設整備等支出	11,644,551
	施設整備等資金収支差額	-10,843,231
その他の活動による収支	その他の活動による収入	1,439,345
	その他の活動による支出	10,024,728
	その他の活動資金収支差額	-8,585,383
	予備費支出	0
	当期資金収支差額合計	58,141,995
	前期末支払資金残高	273,345,378
	当期末支払資金残高	331,487,373

【事業活動計算書】

(自)平成31年4月1日(至)令和2年3月31日

(単位:円)

	科目	金額
活サービスの増減	サービス活動収益	500,989,918
	サービス活動費用	441,543,575
	サービス活動増減差額	59,446,343
増減の活動外	サービス活動外収益	5,110,870
	サービス活動外費用	4,058,870
	サービス活動外増減差額	1,052,000
	経常増減差額	60,498,343
特別増減	特別収益	795,317
	特別費用	14,840
	特別増減差額	780,477
	税引前当期活動増減差額	61,278,820
	法人税、住民税及び事業税	390,300
	法人税等調整額	0
	当期活動増減差額	60,888,520
繰越活動増減差額	前期繰越活動増減差額	422,252,739
	当期末繰越活動増減差額	483,141,259
	基本金取崩額	0
	その他の積立金取崩額	1,065,780
	その他の積立金積立額	10,024,728
	次期繰越活動増減差額	474,182,311

令和元年度の法人決算書をご報告いたします。
 なお、決算内容につきましては、施設にて閲覧
 することができます。



葦の家（生活介護）

仲間たちはこれまで、創作活動やパッキンの型抜き、アルミ缶リサイクル、公園清掃など、さまざまな活動・作業に取り組んできました。昨年はエアコン内部に使用されるシートのカットや、わずか数ミリの透明なパッキンの分包、プラスチック製カップの梱包といった作業にも取り組みました。今年も新しい作業を受託し、作業の幅がどんどん広がっています。支援員は、仲間が見通しを持って作業できるように、小さく透明なパッキンを100枚ずつ数えるときは100個のマスを書いた黒い台紙を使ったり、プラスチック製カップを数えるときは1セット分の丸を書いたシートを準備したり、どこまでやれば終わるのかわかるようにチェック表を作成したりしています。仲間たちが「何を、どれだけ、どこまで」作業するのかわかりやすいよう、一人ひとりに合わせた環境設定を考え、それがぴたりとはまったときの快感こそが、私たち支援員のやりがい、達成感に繋がっているのだと感じています。

（サービス管理責任者 岡村）



プラスチック製カップの梱包

えーる油山（多機能型：就労継続B型+生活介護）

えーる油山は今年で5年目になりました。年々仲間の人数も増え施設内が手狭に感じることもある中、仲間たちがより安心して活動に取り組めるよう施設全体の環境とスケジュールの見直しを行い、4月から変更しました。環境設定のねらいは、大人数を分散しグループ分けをすることで過度に気になることや刺激を少なくすることです。

スケジュールについては必要以上の空き時間を少なくすることで、活動のリズム作りと見通しを持ちやすくすることを目指しています。各々の主体性、目的のある活動とコミュニケーションの充実を目指しての取り組みですが、思わぬ副産物として、コロナウイルスへの感染防止対策としても効果を発揮しています。仲間たちがより充実した通所生活を過ごすことができるよう、さらに環境や支援を工夫していきたいと考えています。

（支援員 渡邊）



特別支援学校放課後等支援事業（屋形原・若久）

畑でお芋作り…

那珂川に畑を借りて、えーる油山を中心に様々な作物を育てています。放課後のルームでもその一角を分けてもらい、さつま芋を植え付けました。一角とはいえ、こども達にとっては大きな畑。まずはドライブがてら場所を見に行くことから始め、植え付けるための穴をあけたり、植え付け後の様子見のついでに水やりをしたり…小学部の児童さんには“プチ探検”といった具合。今後は収穫までさつま芋の成長を見届けつつ、「手作りのペットボトル風車や看板を持っていこう♪」と、楽しい活動を計画中です。



学校が再開し…

6月上旬より3か月ぶりに若久特別支援学校たんぼぼルームでの活動が再開しました（学校臨時休業中は屋形原どんぐりルームと合同で活動していたため）。たんぼぼルームのこどもたちは慣れた環境に戻り、これまで以上にハツラツと活動しています！また、新年度になり新しい仲間も増えました。にぎにぎしくなったたんぼぼルーム、ぜひ皆さんも遊びにきてください★



（責任者 是永）

相談支援（基幹相談支援センター・相談支援センターあしっぷ）

当センターでは感染予防対策として、4月下旬から5月終わりまで、各相談員が交代制で在宅ワークを実施しました。

個人情報保護のため、普段の相談支援の実施は難しい状態でしたが、ステイホームの時間を有効に使うため、様々な研修課題に取り組みました。各相談員が福岡市相談支援ガイドラインを読み込み、障がい者の権利や、その人らしい暮らしを支える支援について考え、自身の支援を振り返る良い機会となりました。その他にも、面談技術や記録の書き方、障がい児への支援についてなど、日々の業務の中ではなかなか実施できていなかった自己研鑽の時間を作ることができました。



普段の支援を振り返り、知識を深められたことで、地域の障がいのある方にとってよりよい支援を行えるよう努力していきます。

（相談支援専門員 田村）

ヘルパーステーションほっとほっと・ショートステイ

ホームヘルプでは、通常、ご自宅内で、食事、入浴、更衣などの介助を行ったり、買い物をはじめさまざまな場所へ同行する、移動支援・行動援護などの外出支援サービスを行ったりしています。

最近は新型コロナウイルス感染症の影響があり、外出支援サービスを自粛する日々が続いています。予定のお断り、時間短縮、居宅介護サービスへの切り替え等をご本人、ご家族にもご理解いただき、実施している状況です。「休みに天神で買い物ができない」「外食したい」「バス、電車に乗りたい」さまざまなご利用者の要望を実現できず私たちヘルパーも多いに悩み、所内、他事業所、行政などと意見交換を続けている日々です。

しかし、新たな発見として、「居宅サービス支援を撮影した写真が素敵だ」とのお声を周りから頂きました。写真のように食事を摂る様子だけでなく、その過程として準備をする様子、出来上がるまで楽しみで落ち着かない様子などサービス中一緒に活動した明るい話題がいくつもありました。



普段と比較すると暮らしづらい事がまだありますが、外出できないからヘルパーの役目が低下する訳ではありません。今回のように行動制限が続く状況でも居宅介護サービスの必要性がある事を感じました。苦しい状況ではありますが、自粛の成果が一日でも早く実る事を信じてサービスを継続していきます。

(サービス提供責任者 臼井)

グループホーム (すてっぷ・すまいるホーム)

緊急事態宣言を受け、ホームでの暮らしにもさまざまな変化がおきました。まず、密を避けるため、リビングでの食事から個人のお部屋で食事を取るようになりました。また、通所事業所の利用や外出等が制限され、かなり窮屈な暮らしとなりました。

仲間たちは知的に障がいがあるため、「新型コロナウイルス感染症」の理解が難しく、なぜ規制がかかっているのか理解できず、戸惑ったり、パニックになったりすることも多くありました。職員も目に見えないウイルスの影響下、緊張感が高い中で、毎日「密」の状態仲間たちの生活を支えています。



現在は、密にならないよう配慮したリビングでの食事、毎日の通所、近場の買い物などが徐々にでき、少しずつ以前の暮らしに戻ってきました。しかし、第2波、第3波の可能性もあり、支援の緊張感はわかりません。もしホームで発生した場合、少しでも対応ができるように暮らしのシミュレーションを行っていきたいと思います。

(管理者 藤)



Studio Ashi & Öl Aburayama 商品紹介

今回は「葦の家」と「えーる油山」からそれぞれイチオシの授産品をピックアップしました！



葦の家の新作トートバッグ(白い追憶)は、仲間が思いを込めて、丁寧に描いたどくだみの花が色あざやかにプリントされています。底にマチがあり縫い目がしっかりしているので、書類を入れるのにも、買い物袋としても便利です！色も2色展開となっていますので、普段着の差し色に一つ持っている活躍しそうです。その他、仲間たちがデザインしたオリジナル雑貨も販売しておりますので、興味のある方はぜひご連絡ください！

えーる油山の日課はフェルト作業が中心です。羊毛を専用のボラーで丸くしていきます。黙々と、おしゃべりしながら、何日もかけて、1日に何個も…など、それぞれのペースで作ったものは鍋敷きやコースター、アクセサリーになります。いつもの生活に彩りと温かみを添えてくれますよ！

お気に入りをぜひお求めください(‘ω’)ノ

詳しくはホームページをご覧ください！

【photo : 鍋敷き Size φ13.0 cm 900 yen】



社会福祉法人 葦の家福祉会だより 令和2年8月号

発行日 令和2年8月1日

編集・発行 社会福祉法人 葦の家福祉会

〒814-0153 福岡市城南区樋井川4丁目1-17

〈代表〉Tel 092-873-7481 Fax 092-834-3362

E-mail asinoie@blue.ocn.ne.jp

URL <http://www.ashi.sakura.ne.jp>